

## 秋の陣

暑い夏はまだ続くというのに、明後日から学校が始まります。

朝、いわき駅までの道を歩くと、行きは下りですので、ひょいひょいと進んでいくのですが、帰り道は上りですので、えいこらえいこらとひたすら歩みを進めるのに腐心して、できるだけ暑いとか疲れるとかといったマイナスの言葉を使わずに、一定のリズムで八幡神社までは息を抜かずに行かないと、たどり着かない気もしてくるのがわかっているから、忍の一字で進みます。八幡神社にたどり着けば、残りは少しずつ下っていくので、惰性に身を任せて学校までの残りの道程を進むこともできるのです。

これで、学校に冷房がなかったら、進む気が起きませんが、教室に着くと冷たい空気が自分を待っていて、ほっと一息ついて、冷たいジュースをごくりと一口飲み干すと、達成感も生まれるのであります。

昔はどうだったのでしょうか。冬の暖房もなかった高校時代、ましてや冷房など誰もが考えもしなかった時代には、流しの冷たい水で顔を洗ったり、タオルを冷やして頭に宛てたりしたのであでしょうか。あまり記憶がないのです。こんなに暑かったかどうかは定かではありません。お盆が明けると秋風が吹くということはよく言われていました。課外授業は暑かったが、夏休み明けがこんなに早くなったのは、ずっと後のことのように思います。

冬の暖房もなく、昔のプール(今のテニスコート)のあたりにあった古い教室では、床から冷たい風が吹きあがり、コートと手袋をしてもよいと認めてもらって、手をこすりながら単語を書いていたあの時代、「先生、なぜ磐高には暖房がないんですか。」と尋ねたところ、磐高は火に弱いからだ。」とおっしゃって、誰もが納得していたあの時代、「磐女はなんでストーブがあるんですか。」と聞いた時に、「母体保護だ。」と返されて誰もが納得していたあの時代、いつもそんな話をしていたのは、山崎憲一先生(通称ヤマケン)だったかもしれません。

いつもシビックで通っていたので、ヤマケンシビックが通ると、アンチ巨人だったので友人たちと昨日の巨人の試合の結果を確認し、今日の授業でのいろいろ起こりそうな出来事を話しつつ学校に通ったものでした。

クラスみんなで時計の針を10分進めて、「先生授業が終わりました。」と言うと、「そんなことはない。どれお前の時計を見せてみろ。」と数人の時計がすべて10分進んでいたのも、「じゃ授業を終わる。」と行って帰り道、遠くからチャイムの音が流れてきて、先生は校舎の向こうからじつとこちらを見つめておりました。次の授業はきっちり60分行っていただきました。

退職後も、高校30回卒の面々とよくゴルフをしていただけて、その時のことなどを笑いながら話してくれたこともありました。

今年の秋には、いつものゴルフに先生は出られません。

夏季休業に入ってすぐに、先生は一人で旅立たれました。今年のお盆には、先生のことを思い出しながら、これからの学校での生徒への指導について考えておりました。先生、どうぞゆっくりお休みになってください。私は、磐城高校での最後の半年を、生徒のためにできるだけ頑張るつもりです。

